

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第3区分
 【発行日】平成23年3月10日(2011.3.10)

【公表番号】特表2003-505567(P2003-505567A)
 【公表日】平成15年2月12日(2003.2.12)
 【出願番号】特願2001-512789(P2001-512789)
 【国際特許分類】

C 0 8 L 67/00 (2006.01)
 B 2 9 C 55/28 (2006.01)
 C 0 8 J 3/20 (2006.01)
 C 0 8 J 5/00 (2006.01)
 C 0 8 J 5/18 (2006.01)
 C 0 8 K 3/00 (2006.01)
 B 2 9 K 67/00 (2006.01)
 B 2 9 L 7/00 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 67/00 Z B P
 B 2 9 C 55/28
 C 0 8 J 3/20 C F D D
 C 0 8 J 5/00
 C 0 8 J 5/18
 C 0 8 K 3/00
 B 2 9 K 67:00
 B 2 9 L 7:00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年1月12日(2011.1.12)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 0 8 】

このようなポリエステルまたはコポリエステルとしては、ヒドロキシアルカノエートの誘導体、特に3-ヒドロキシブチレート、3-ヒドロキシバレレートおよび3-ヒドロキシプロピオネートの誘導体を挙げることができるが、同様にポリブチレンサクシネートおよび-カプロラク톤のポリマーをも例示できる。

これら -カプロラク톤のポリマーが、特に好ましい。

本発明の組成物の、該脂肪族熱可塑性ポリマーは、従って好ましくは -カプロラク톤のポリマーである。

「 -カプロラク톤のポリマー」なる用語は、 -カプロラク톤のホモポリマーのみならず、高い -カプロラク톤含有率、例えば少なくとも50質量%なる含有率をもつ、他のモノマー、好ましくは他の環状ラク톤とのコポリマーを意味するものとする。これらの環状ラク톤としては、例えば -プロピオラク톤、 -ブチロラク톤、 -バレロラク톤、1,4-ジオキサン-2-オン、1,4-ジオキセパン-2-オン、1,5-ジオキセパン-2-オン、グリコリド(1,4-ジオキサン-2,5-ジオン)およびこれらの置換誘導体並びにL-ラクチド、D-ラクチド、DL-ラクチドを例示することができる。

これら -カプロラク톤のポリマーは、好ましくは -カプロラク톤のホモポリマーである。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0045

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0045】

該押出機の溶融領域内で、二酸化炭素との混合物としての、DHP LUPERSOL（登録商標）101を、上記の導入装置によって、該ポリ-ε-カプロラクトンへスプレーした。このDHP LUPERSOL（登録商標）101は、1分間につき、該ポリ-ε-カプロラクトンCAPA（登録商標）680 1 kg当たり1 g の割合、および二酸化炭素5 ml中570 μlのDHPなる割合で導入した。

かくして得た組成物について測定したRMFI、ゲル化率、数平均分子量、結晶化温度(T_c)および $\tan \delta$ の値を、以下の表4に報告する。

80 における、時間(単位:s)の関数としての、伸び率勾配1(単位 s^{-1} で表示)に対する、伸張粘度(単位kPa.sで表示される)の変動を、図3に示す(記号:)。

80 における、頻度(単位rad/sで表示される)の関数としての、動粘度(単位Pa.sで表示される)の変化を、図4に示す(記号:)。

二枚のフィルム(No. 1.1、1.2)を、上記方法に従って、かつ以下に記載の条件を使用して、上記実施例1の組成物から製造した。